

付録 別表3 PMAA を反復経口投与した一般毒性試験結果の概要

動物種	ラット	性	雌雄
系 統	Sprague-Dawley		
投与方法	強制経口投与		
投与期間	28日間		
投与量	0、0.12、0.3、1.2、5.0 mg/kg/day		
動物数	10、5、5、5、10匹		
主な影響	5 mg/kg/day 群 雌雄：摂餌量、クロール、肝臓の胆管増生、グリソン鞘の炎症性細胞浸潤 雄：トリグリセライド 雌：総ビリルビン		
	1.2 mg/kg/day 群 雌雄：影響なし		
	0.3 mg/kg/day 群 雌雄：影響なし		
	0.12 mg/kg/day 群 雌雄：影響なし		
回復試験	14日間（対照群及び5.0 mg/kg/day 群の雌雄各5匹）		
回復性	5 mg/kg/day 群の雄で胆管増生が回復期間終了時にもみられたが、その他の変化については回復傾向又は回復性が認められた。		
備考	一般状態や体重、血液学的検査、尿検査、剖検のいずれにも影響はみられず、造血系器官である骨髄、脾臓にも異常はなかった。 DPAA よりも毒性は低いと考えられた。		
出 典	環境省（2006）ジフェニルアルシン酸（DPAA）の毒性試験報告書		